ECOLOGY

人とクルマと自然が、いつまでもいい関係でいられるように。

ダイハツは、生産から物流・販売、走行、廃棄に至るすべての段階で、「人」と「環境」に配慮したクルマづくりをめざしています。クルマそのものの低燃費化、低公害化を高次元で実現することはもちろん、ダイハツ工業全体でISO14001※1の認証を取得するなど、さまざまな角度から環境保全対策を推進しています。

環境負荷物質の低減

廃棄時に漏出する恐れがある環境負荷物質（鉛、水銀、六価クロム、カドミウム）の削減は、日本自動車工業会（自工会）の目標を達成しています。

タントの環境仕様

	車両型式			5BA-LA650S					5BA-LA660S				
				GBVZ	GBVF	GBGZ	GBGF	GBDF	GBVZ	GBVF	GBGZ	GBGF	GBDF
基礎情報	エンジン	型式		KF型									
		総排気量	(cc)	658									
		使用燃料		無鉛レギュラーガソリン									
	駆動装置	駆動方式		2WD					4WD				
		変速機		CVT									
	燃料消費率 ※2	JC08モード	(km/L)	24.3	26.4	24.3	26.4		—	25.1	—	25.1	
			CO_2排出量 (g/km)	96	88	96	88		—	92	—	92	
		参考:燃費基準 ※3 達成		2020年度燃費基準達成	2020年度燃費基準+10%達成	2020年度燃費基準達成	2020年度燃費基準+10%達成		—	2020年度燃費基準達成	—	2020年度燃費基準達成	
		WLTCモード ※4	(km/L)	21.2	21.9	21.2	22.7		19.6	21.4	19.6	21.4	
			市街地モード(WLTC-L) (km/L)	19.5	20.1	19.5	20.9		18.0	19.5	18.0	19.5	
			郊外モード(WLTC-M) (km/L)	22.6	23.4	22.6	24.3		20.8	22.6	20.8	22.6	
			高速道路モード(WLTC-H) (km/L)	21.1	21.8	21.1	22.6		19.6	21.6	19.6	21.6	
			CO_2排出量 (g/km)	110	106	110	102		118	108	118	108	
		参考:燃費基準 ※3 達成		2030年度燃費基準75%達成			2030年度燃費基準80%達成		2030年度燃費基準70%達成	2030年度燃費基準75%達成	2030年度燃費基準70%達成	2030年度燃費基準75%達成	
環境性能情報	排出ガス	適合規制・認定レベル ※5		平成30年基準排出ガス50%低減レベル									
		規制値・認定値 (g/km)	CO	1.15									
			NMHC	0.05									
			NOx	0.025									
	参考	環境対応車普及促進税制適合		○					—	○	—	○	
		グリーン購入法適合		—									
	適合騒音規制レベル			加速走行騒音規制値:70dB-A									
	エアコン冷媒の種類(GWP値 ※6)/使用量		(g)	HFO-1234yf(1※7)/290									
	車室内VOC ※8			自工会自主目標達成(厚生労働省室内濃度指針値以下)									
	環境負荷物質削減	鉛 ＊1		自工会2006年目標達成(1996年比1/10以下)									
		水銀 ＊2		自工会目標達成(2005年1月以降使用禁止)									
		六価クロム		自工会目標達成(2008年1月以降使用禁止)									
		カドミウム		自工会目標達成(2007年1月以降使用禁止)									
		自工会目標適用除外部品		＊1.鉛バッテリー(リサイクル回収ルートが確立されているため除外) ＊2.ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスチャージヘッドランプ、室内蛍光灯(交通安全上必須な部品の極微量使用を除外)									
環境への取り組み	リサイクル	リサイクルし易い材料を使用した部品		インストルメントパネル、ピラーガーニッシュ、ドアトリム、フロント・リヤバンパーなど									
		リサイクル材の使用		ダッシュサイレンサー、フェンダーエクステンションなど									
		樹脂、ゴム部品への材料表示		あり									
	環境負荷物質使用状況等	鉛		電子基板・電子部品のはんだ、圧電素子に使用									

※1:国際標準化機構(ISO)が1996年に制定したマネジメント(EMS)の国際規格。環境負荷を継続的に低減できるシステムを構築した企業、自治体の組織などに認証が与えられます。
※2:国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。
※3:省エネ法に基づき定められている燃費目標基準。
※4:WLTCモードは、市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モードです。市街地モードは、信号や渋滞等の影響を受ける比較的低速な走行を想定し、郊外モードは、信号や渋滞等の影響をあまり受けない走行を想定、高速道路モードは、高速道路等での走行を想定しています。
※5:WLTCモード走行。
※6:GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数)
※7:フロン法において、乗用車用エアコン冷媒は、2023年度以降、環境影響度を製造者等ごとに出荷台数で加重平均した値が目標値150を上回らないことが求められております。
※8:厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値。